

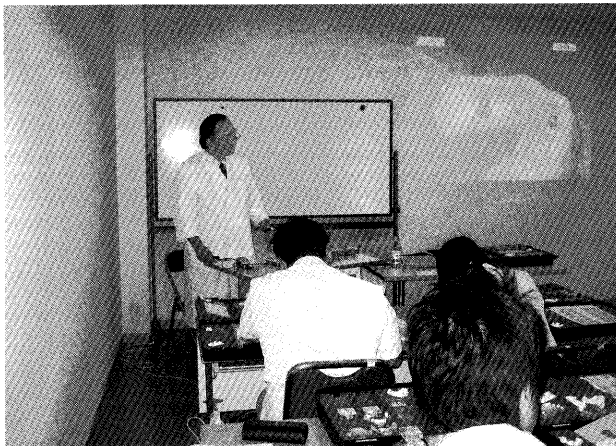
講義ノート

デンタルインプラント特論

～第一回臨床技工プロ講座を終了して～

臨床教授 杉井伸行

時代のニーズに挑戦する歯科技工士のキャリア開発を支援する企画。大学の単位認定、土曜日曜の開講、少人数制で参加しやすい受講料でという大胆な企画が持ち上がった。インプラントの研修は貴金属パーツに費用がかかる。受講生に大きな負担はかけられない。しかし、講義の担当者として研修は臨床に即し充実した内容にしたい。インプラント研修の既存の考え方を大きく変え、シラバスの作成に入ったが試行錯誤が続いた。

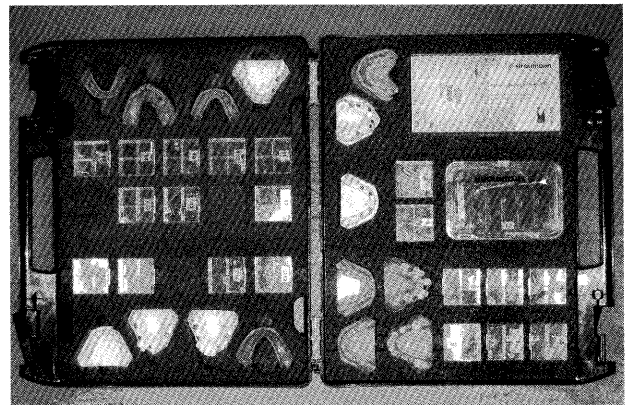


(写真1) 講義風景

ブラックボックスの利用

インプラント技工は各種の補綴パーツを適切に組み合わせることから始まる。しかしプロジェクター等による画像では大きさ・質感・適合の感触等を知るのには難しい。そこでストローマンインプラントの輸入代理店である大信貿易(株)より研修用ブラックボックスを借用した。このブラックボックスには印象から補綴物装着までのすべての症例をカバーできる実際のパーツが臨床的模型とともに入っている。臨床頻度の高いケースを想定して実際に補綴パーツを組んでみることにより、受講生がインプラント上部構造を理解するのに大きな役割を果たしたものと

思っている。次の機会にはこのブラックボックスをより効果的に使用方法を模索したいと思う。



(写真2) ブラックボックス

インプラント技工における理工学的重要性

歯根膜を持たないインプラントに装着する補綴物と言うまでもなく適合精度が重要である。作業用模型のダウエルピンの少しのあそびでも口腔内では不適合となることがある。この解決には技工作業中に歯科理工学の基本をどれだけ忠実に守るかである。今回の講座では確実な鑲着、鑄造、鑄接とはどのような条件下、操作が必要なのかに多くの時間をかけ、勘に頼らない理論に裏付けられた技工作業を日常臨床にどう取り入れるかに重点を置いた。

臨床に即した講義・実習

この講座を行うにあたり教科書的な講座にならないように注意した。作業法に関しては私が日常臨床で行っているそのままの方法を解説し、作業デモでは使用材料、切削用ポイント、バー等もすべて日常臨床で使用しているもので行った。他の技工士が使用している材料を知るのも参考になるものである。

信頼性の高い補綴物・信頼される歯科技工士

金属メーカーが製造した歯科用金属をいかに傷めないで補綴物に加工するか。そのうえ審美的で機能的で強固で長持ちをする補綴物を製作するのは容易なことではないが、技工士にとっては10個のうちの1個の10パーセントであっても患者にとっては1個のうちの1個で100パーセントだということを心に留めた臨床技工でありたい。

精度を求められるインプラント上部構造の製作法を学ぶことにより天然歯に対する補綴物の完成度が上がることも期待したい。

受講した若い歯科技工士にとって今回の臨床技工プロ講座が名前のとおり歯科技工のプロとしての自信と楽しさを知るエネルギーになれば嬉しいことである。企画に感謝したい。



(写真3) 実習風景